

# レンコン作り 魚がお手伝い

魚がすむ田んぼで、  
特産のレンコンを育て  
よう。鳴門市で大学  
の研究者とボランティア  
が協力し、ユニーク



な取り組みを進めてい  
る。昔ながらの自然環  
境を守りつつ、収量ア  
ップの「一石二鳥」を  
目指す。

## 収量増へ研究者ら放流実験 環境保護と一石二鳥

徳島県は全国2位の  
レンコン産地だが、水  
路の底にたまった泥を  
取り除くのは高齢の農  
家にとつて重労働のため、コンクリートで整  
備するところが増えて  
いる。

そんな中、2004  
年に鳴門市の水路で、  
県内では絶滅したと思  
われていたコイ科のカ  
ワバタモロコが見つか  
った。「このままでは  
魚がすみづらくなって  
しまう」。徳島大の田  
代優秋助教(30)は生態  
系工学Ⅱは、希少な魚  
の発見を機に、魚がレ



田んぼの水草を取るボランティア

ンコンの収量アップに  
貢献していると証明す  
ること、自然のまま  
の水路を残すことがで  
きないかと考えた。

昨年、鳴門市内の約  
80平方メートルの田んぼで実  
験を開始。フナを放流

した区画の収量が、そ  
うでない区画より2割

ほど多いとの結果を得  
た。フナがミミズなど  
のエサとともに余分な  
水草を食べ、水中の土  
も耕すためと推測され  
る。

今年はロコミで地元  
住民や農家、企業から  
約40人のボランティア

が参加。6月に水路の  
水草を切り、魚が田ん  
ぼに入りやすい環境を  
つくった。

収穫は10月の予定。  
田代助教は「自然を生  
かしながら、地域を活  
気づけたい」と話して  
いる。